

課題

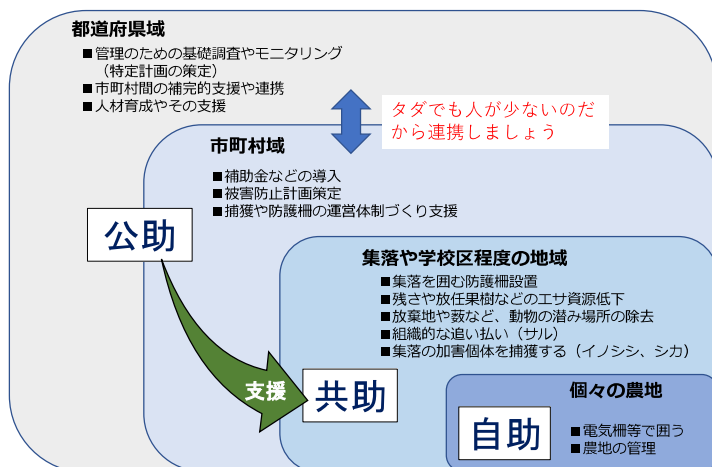
技術的には、獣害は解決できます

■問題は、実践する体制

■「獣害につよい集落」づくり

■個体数管理と被害管理に必要な支援

野生動物管理・獣害対策の主体間の役割



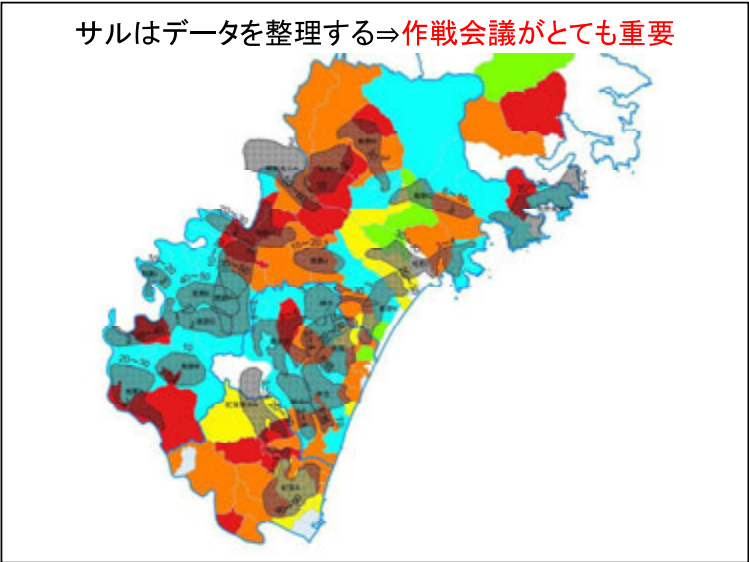
ステップ0 関係機関の協議（作戦会議）



関係機関の役割分担は必須。今は役割なくても、進展中に役割が生まれるものです。
最初のモデルは成功させないといけない＝**総力戦**

既往データを可視化





サルは特に、地域（管理ユニット）の協議が重要

地域全体の管理計画を検討中

ユニット(県出先単位程度)で調整し、各市町で地域実施計画

群名	GPS装着	ルートセンサ結果		道数カウント	計画		年度ごとの計画						
		加算レベル	回数		計画オプション	時期	準備手法	R5	R6	R7	R8		
長野K	x		3	20~30	R6	部分	R7	ICT			GPS装着（長野市）	ICT能購入（長野市）	計画実施被害対策モデル育成
長野O	?		不明		R5	全県	R6	ICT、サークルM			情報実施（ICT）、地域への広域と連携	被害対策のモデル集落育成	
岐阜O			3	20~30	R6	全県	R7	サークルM			カウント（御岳町）	被害対策のモデル集落育成	
岐阜B	x	3~4		20~30	R7	全県	R6	ICT			御岳町GPS装着（R5中に可能であれば急ぐ）	道数カウント、情報実施	被害対策のモデル集落育成

プランを考えれば自然に「計画」になります

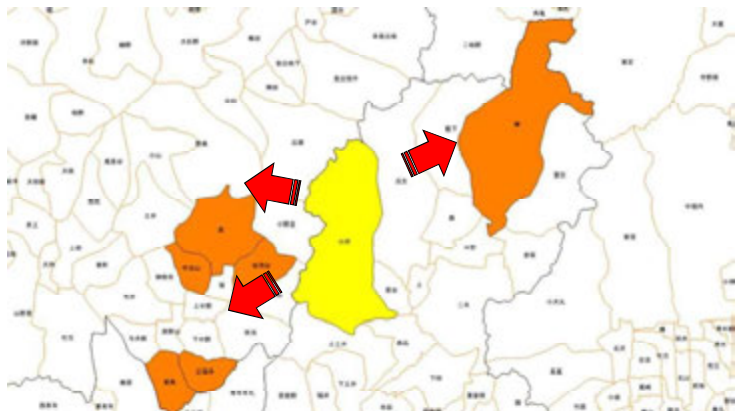
「集落」に対しては

日本の最小「行政」単位、「自治会」

農林水産省が獣害対策の社会モデルづくりを進めてきている
(社会モデルの構築は地域政策に共通する取り組み)

農村振興局 (獣害防止部門) 岐阜市矢野町小河集落

核となるモデルは周辺への波及効果が期待できる

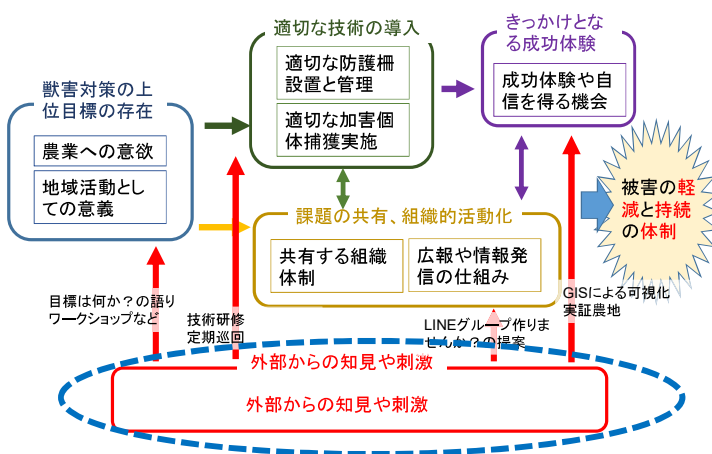


大げさに言えば「社会を変える(改善)する」
→規模の大きいアクションリサーチ

地域主体の獣害対策が
成立する要因やプロセスは？

共通する特徴がある

結果図：獣害につよい集落の成立プロセス



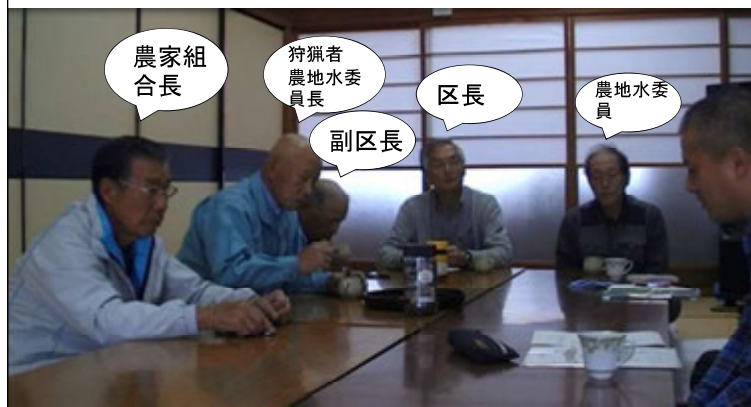
合意形成の目標

■理解
■納得
■共感

「共感」を得ていく手法

ステップ1 役員との協議や聞き取り

・役員等と集落の要望や問題、対策の方向性などを確認



ステップ2 集落の下見や課題発見



その後必ず「下見」しておく
(課題が把握できれば提案もしやすい)

ステップ3 センサーカメラ等で課題の可視化



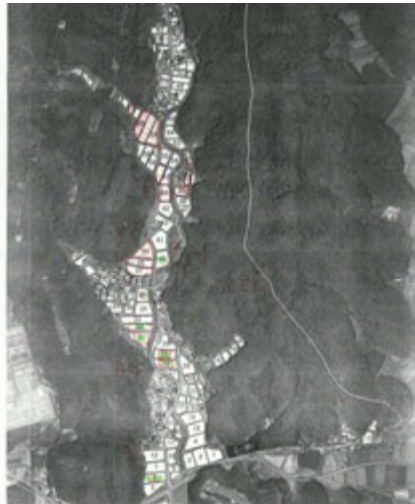
- 2～5万円程度
 - 赤外線フラッシュ
 - 動画1～2分
 - 単三電池6～8本
 - SDカードに記録
 - ネットでも購入可
- 例：株式会社GISupply
<http://www.gisup.com/>



ステップ4 被害状況等の可視化



聞き取りを速記的に地図にメモ



GISで可視化すれば、多くの関係者で共有可能⇒何か見えてくる



(市町村、県協力して)

現場の課題を把握する！

ステップ5 研修会・座談会

・研修会・座談会により、集落全体で獣害対策の基本を理解してもらいます。



伊賀市霧生地区

伊賀市鈴鹿地区



ステップ6 現地研修会・集落点検



伊賀市
岡花地区



集落内の獣害場所、被害対策の現状、エサ場となっている状況などを点検します。**おススメ！**

伊賀市
川東地区



野菜クズ捨て場



獣道



間違った電柵設置

ステップ7 ワークショップ



ワークショップは、いろいろな「地域を動かす」ことにつながります
(森動センターで一緒にやれます)



ワークショップは、いろいろな「地域を動かす」ことにつながります
(森動センターで一緒にやれます)



ワークショップは、いろいろな「地域を動かす」ことにつながります
(森動センターで一緒にやれます)

課題	解決策
- 隠れ場が多い - 森木、ヤブ、竹やぶがある - 川の本流、支流がある - エサ場が多い - 野さいがある - 果樹がある(クリ・ビワ) - ロケット花火で追い払い (こいさが一軒) - 屋敷人が少ない - 金網フェンスは効果がある - 全体的に柵は少ない。	- 個人でできること - 地域ぐるみでできること - 行政にお願いする
	- ネットの補強と設置 - ロケット花火を追い払い - 犬で追いはらう - 侵入されにくい体制づくり - ヤブをきれいにすく - 害獣の全体を柵でかこい

これは絶対必要！いろいろな「地域を動かす」ことにつながります
(一緒にやれます)

ステップ8 被害対策の実施



出合い作業で集落全体
に防止柵を設置

補助事業等を
活用して...



伊賀市
炊村地区
集落ぐるみでの
追い払い

ステップ9 定期的な巡回や指導・改善



柵の点検講習



防護柵の巡回



サルの追い払い研修



柵管理研修

日を決めておくことおススメ。2か月に一回くらいできたら良いですけど

ステップ10 結果の評価と反省会



ステップ10 結果の評価と反省会



趣旨の説明

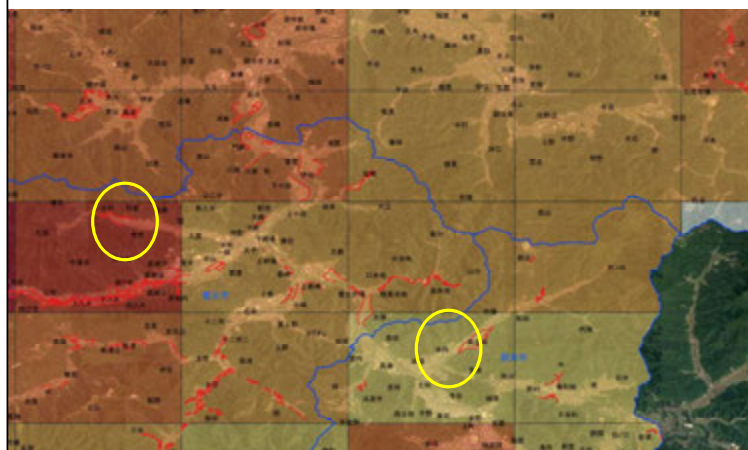
継続して取り組んでいるが、成果は今一つの集落。秋期に「反省会」としてワークショップ。可能な限り、「自分たちの意見」を出す⇒それをまとめる⇒次年度の課題も自身で発表⇒いつの間にか「自分たちの意見」がまとまってくる

集落の支援手法

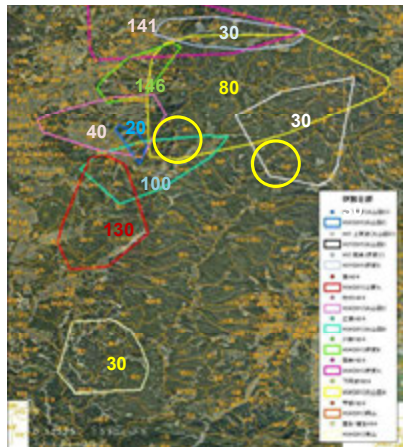


人・集落の
意識は変わる

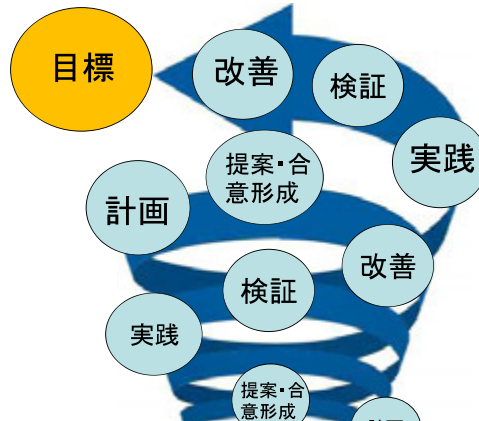
1集落真剣に関わると周辺の
野生動物の管理にも目が向く(はず)



1 集落真剣に関わると周辺の 野生動物の管理にも目が向く(はず)



アクションリサーチ 長期に「共同で」「改善」していく「実践」



地域づくりに関する業務に共通のスキル

実践することで人の意識も変わる



3日置きには点検した。研修会や現地点検を通じて、点検も「やらなあかん」と思い始めた。去年は半分は被害に。今年は被害ゼロ。

実践することで人の意識も変わる



以前は「対処」であって「補修」になってなかった。自分たちも成功体験を積んだ。被害も減らすことができる。麦も作れる。



研修会を通じて、集落のみな意識も変わってきた

- 意識はだいぶ変わってきた
- 多くの住民が、「当事者意識」を持つようになってきた
- 被害はピーク時の半分くらいになってきた

地域との関係で 得られるものがある

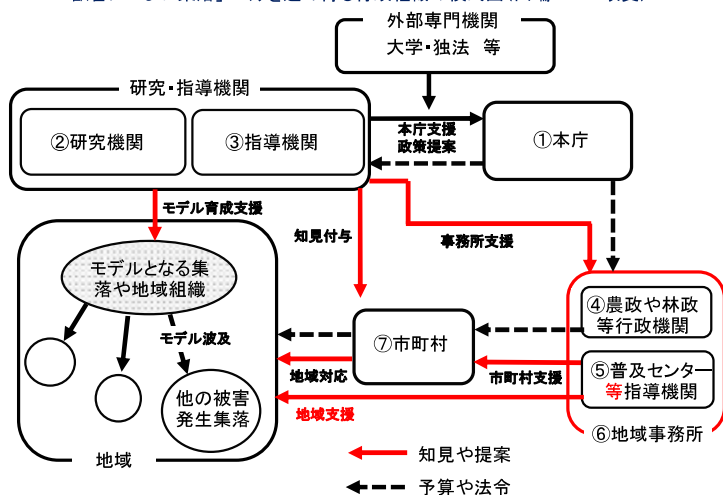
営農意欲も改善する！！



↑ 冒頭のビデオで以前は苦情を言っていた人

誰が担うべき？

「獣害につよい集落」づくりを進め得る行政組織の模式図(山端2020改変)



兵庫県佐用町役場 柏原氏(2回目セミナー回目のゲストスピーカー 本人了承済)



獣害対策に関する集落支援を通じて、「住民からの評価」「仕事の面白さ」を実感

現在困っている
解決することができる

獣害対策は
評価されやすい仕事です

本気を出せば
集落の被害は変えられる

そのためには
共有できる目標が必要

共有できる目標

- 集落で農業が営める
- 暮らしやすい集落に

1例 加西市畑第一営農組合



地元の米が食べたいから⇒集落営農の目標でもある

私の実践は

合意形成手法に関する研修(公務員等対象)



～ 実践から学ぶ ～
「獣害について」集落づくりのプロセスや合意形成の手法

2023年1月12日(木)

13:00～15:00

オンライン開催(Zoom)

参加費 無料

申込方法 申込書提出

申込期限 10/25(木)まで

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

申込先 加西市農林水産部

書籍も執筆しているので、(よかったら)参考にしてください

これからの 地域社会のための 獣害対策

やれば出来る行政と集落のやるべきこと

山端直人



農林出版社